

東西条スマイルプラン～心に響く体験を生かした道徳の時間の年間指導計画（第4学年）

テーマ:いつも心に太陽を～さかせよう コスモス わたしたちの町に!～

学校教育目標
豊かな心をもち、たくましく生きぬく子どもを育成する

道徳教育重点目標
進んで学ぶ子
命を大切にする子
手をつなぐ子

めざす4年生の子どもの姿
自分らしさを認め、生かす
みんなの中でともに伸びようとする
自ら考え判断し、よりよく行動する

道徳の時間の重点内容項目
1 - (2) 思慮・反省 ・ 2 - (3) 信頼・友情 ・ 2 - (4) 尊敬・感謝 ・ 3 - (3) 敬けん ・ 4 - (1) 公德心・規則尊重 4 - (5) 郷土愛

● 重点内容項目の指導構想

学期	教科・特別活動など	総合的な学習の時間	道徳の時間		常時活動
			ロングユニット	ショートユニット	
一学期	理科 「春の自然」 図工 「花いっぱいになあれ」 社会 「命とくらしをささえる水」	花いっぱい大作戦		みんなのために	ふれあいそつじ・ふれあいサーキット
		学校周辺の春をさがそう はじめようボランティア いろいろな花を植えよう 力を合わせてコスモスのお世話をしよう	2 - (4) 4 - (5) 2 - (1)	4 - (1) 4 - (1)	
二学期	特別活動 「創立記念発表会」 社会 「郷土をひらく」 国語 「ウミガメのはまを守る」	笑顔いっぱい大作戦		友だち発見	学級活動
		コスモス街道のオープニングの会を計画しよう 力を合わせてオープニングの準備をしよう 地域のボランティアに学ぼう	4 - (2) 4 - (5) 4 - (4)	2 - (2) 2 - (3)	
三学期	特別活動 「自分を大切に」 国語 「1年間の思い出をしようかいしよう」	心に花をさかせよう		自分発見	
		見つめよう自分の成長 2分の1成人式を計画しよう 伝えようコスモス街道	3 - (3) 3 - (2)	1 - (5) 1 - (2)	

(太字が重点項目)

第4学年2組 道徳学習指導案

えがおいっぱい 花いっぱい

「えがおいっぱいフラワーロード」【ショートユニット】 4 (5) 郷土愛

出典 郷土を愛する心を育てる指導「花いっぱいの島」(改作)文部省(現文部科学省)

本時のねらい

地域やみんなのために働いている人たちの活動に学び、郷土を大切にできる心情を養う。

手紙を活用する授業

指導者 東広島市立東西条小学校 児玉 順次

1 主題設定の理由

ねらいとする価値

4年生になり地域学習も増え、様々な地域の人との交流も広がってきた。しかし、自分はみんなに支えられているという実感に乏しいのではないかと感じられる。

生活の中で地域の人たちとかかわりをもって生活をしていることや、身近な人たちに支えられていることに気付いたとき、「ありがたい」と感じ、ふるさとの大切さが一層感じられ、積極的にそして主体的にかかわりをもっていこうとするものだ。また身近なところに地域やみんなのために働いている人がおられ、その方たちと共同して活動したり、励ましを受けたりすることによって、自己肯定感を高めたり、集団に対する働きかけの意欲の向上に結びついたりすると考える。

心に響く資料

本資料は、主人公「ぼく」の父親の花を植えるという行為が、「ぼく」や地域の人々の心に変化を及ぼすという話である。

初めは、父親が自分の家の庭でもないのに、なぜ花を道路わきに植えようとするのか疑問に思っていた主人公。それが父親といっしょに行動したり励ましの声をもらったりしているうちに、郷土のためを思った父親の行為の意義を次第に理解し、喜びを感じるようになる。郷土を大切にできる心をはぐくむのによい資料であり、体験的な学習へとつなぐことで、価値に迫ることができると思う。

価値の自覚を深める工夫

展開後段で、昨年のコスモス街道や地域のボランティアグループ「三和会」の方々の様子を知らせた手紙を紹介することで、自分たちの活動の意義を確認させるとともに、コスモス街道がみんなに支えられてつくられていることを実感させたい。

終末の段階では、三和会の方にコスモス街道への思いを話していただくことで、クライマックスを迎えるコスモス街道づくりの意欲付けにしていきたい。また地域の一員としてよりよい郷土をつくらうとする心情を深め、ふるさとを考えるきっかけとしたい。

児童の実態

本学級の児童は、自分たちの地域のことを肯定的に捉えており、地域のおじさんやおばさんに対してはあいさつを交わし合い、お世話になっていると感じている児童は多い。しかし「心のノート」によると自分にとってのとおきおきの場所は、学校であったり、家であったり、幼稚園であったり、秘密の基地であったり、過ごす時間の長い場所や遊び仲間の中での共通空間から抜け出していない。

総合的な学習の時間において、現在目標を「汗を流してあとで喜ぼう」と定め、「花いっぱい大作戦」(コスモス街道)に取り組んでおり、三和会の方々に世話になっている。児童は、三和会の方々がどんな気持ちでコスモス街道を始めたのか、どんな気持ちで活動をしているのか、少しずつ気付き始めてはいるが、感想文の中でそのことに触れている児童は少ない。

本時の学習が、「花いっぱい大作戦(コスモス街道)」で日ごろからお世話になっている三和会の方々のコスモス街道への活動の思いを探るきっかけとなり、コスモス街道の歴史を学習し直す活動が生まれれば、郷土愛という本時のねらいにつながり、二学期のコスモス街道オープニングという総合的な学習の時間もより深まると考える。

2 全体計画（全 23 時間 総合的な学習の時間 20 時間 道徳 3 時間）

時期	児童の意識の流れ	道徳 「心のノート」活用 ふるさとティーチャー	各教科・特別活動 総合的な学習の時間	
四月～五月	<p>今年の迷路は「タイヨウ」がいいよ。これから水やりや草抜きが必要だね。</p> <p>いっしょに活動を手伝ってくださる三和会の方には礼儀正しく接していきたいな。</p>	<p>「小さな心づかいで」(東京書籍) 2 - (1) 礼儀 礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接しようとする態度を養う。 「心のノート」P34 を読み、礼儀の意味について考えを共有し合い、心が通い合うあいさつなどの礼儀について考えさせる。</p>	<p>総合的な学習の時間「花いっぱい大作戦」</p> <p>昨年度の取組みを参考に見通しを持つ。 三和会の方にアドバイスしていただきながら、迷路の設計図を作る。</p> <p>コスモスの種をまく。 草抜き、植え替えを保護者とともに行う。 学校をきれいにする。 花の苗を植える。 看板づくりをする。 看板を取り付ける。</p> <p>水やりをする。</p> <p>草抜きをする。</p>	
六月～七月	<p>しっかり汗をかいた後、喜びたいね。東西条にはいろんな歴史があって、おもしろいところなんだな。</p> <p>コスモス街道はいつから？ コスモス街道の歴史を調べてみたいな。</p> <p>インタビューもしたら、おもしろいよ。</p> <p>三和会の方は利兵衛じいさんと同じように、地域のために活動してくださっているね。</p>	<p>「新しい町・ぼくたちの町」(光文書院) 4 - (5) 郷土愛 行事への参加を通して郷土の生活に親しみ、郷土を大切にしようとする心情を育てる。 「心のノート」P82～83 を読み、P84～P85 にふるさとのおき場所かおきの人を記入し、郷土への愛着を深める。</p>		
		<p>「利兵衛じいさんのこと」(青葉出版) 2 - (4) 尊敬・感謝 自分のできることを進んでやり、公共のために働いている人たちに対して尊敬・感謝する心情を養う。 「心のノート」P46～47 を読み、様々な場でお世話になっている人のことを話題にする中でみんなに支えられている自分を実感し、人々への見方を深める。</p>		
九月～十月	<p>みんなが喜んでくれるような会にしたいな。</p> <p>三和会の方といっしょに活動してきた、これからもこの町を大事にしたいな。</p> <p>汗を流して、みんなに喜んでもらえて最高。</p>	<p>「みかん出し」(光文書院) 4 - (2) 勤労 進んで働くことの大げさを知り、みんなのために進んで働こうとする意欲を高める。</p>	<p>総合的な学習の時間「笑顔いっぱい大作戦」</p> <p>コスモス街道づくりをする。</p> <p>オープニングの会の計画を立て、実行する。 1年生をコスモス街道に招待する。</p>	
		<p>「えがおいっぱいフラワーロード」(文部科学省) 4 - (5) 郷土愛 【本時】 自分の住む地域の人々の活動に対する思いや願いを知り、地域を大事にしようとする心情を養う。 終末で ふるさとティーチャーに郷土に対する思いを語っていただく。</p>		

3 本時の指導過程

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
導入	<p>1 コスモス街道の写真を見ながら、自分たちのやってきたことを振り返ったり、コスモス街道づくりへの期待を語ったりする。 コスモス街道の写真を見て、自由に感想を出してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順調にコスモスが大きくなってきて、安心だ。 ・今年もたくさんの人に来てもらって、楽しんでもらいたいな。 	<p>コスモス街道の写真を用意することで、地域のいろいろな人々に喜ばれていたコスモス街道の存在に気付き、これからの活動への期待感を持たせたい。</p>
展開前段	<p>2 資料「えがおいっぱいフラワーロード」を聞き、話し合う。 お父さんが初めて「花を植えよう」と言った時、ぼくはどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕方ないなあ。お父さんの気持ちは分からないよ。 ・変な気持ち。家で遊んでいたいよ。 <p>そばを通っている人に「よくがんばっていますね」「みんながよろこんでくれますよ」と言われた時、ぼくはどんなことを思ったり、感じたりしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほめられるとうれしいな。 ・やっているとか何か楽しくなってきたな。 ・ぼくたちはいいことをしているんだな。 <p>にこにこして言っているお父さんを見て、ぼくはどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんは本当にこの町が好きなんだなあ。だから花を植えているんだ。 ・ぼくも花を植えることですごくこの町が好きになったし、これからこの町を大事にしたい。 	<p>なかなか乗り切れていない、お父さんの意図が理解できていない主人公の様子と心情を把握させる。</p> <p>ぼくの気持ちが少しずつ変化していっていることに気付かせたい。</p> <p>お父さんの行動に共感しているぼくに共感させる。</p>
展開後段	<p>3 一通の手紙を読んで、自分たちのコスモス街道についての思いや自分についての振り返りを話し合う。 手紙の内容を聞いての感想とともに、コスモス街道や自分たちのこれからについて語ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人の気持ちに支えられているということが分かった。 ・三和会の人たちといっしょにがんばり、コスモス街道にたくさんの人に来てもらいたい。 	<p>一通の手紙を読むことにより、「笑顔いっぱい大作戦」に向けての意欲が高まるようにする。支えられているという実感の喚起がふるさとへの愛着につながると考える。</p>
終末	<p>4 三和会の方の話を聞く。 三和会の方のお話を聞きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西条が好きになってきたな。 ・私たちの町は、私たちがつくるんだ。 	<p>コスモス街道の歴史や三和会の方の願いを聞き、これからの活動に対する意欲を高める。</p>

基本発問 中心発問 今までの自分を見つめる発問 これからの自分を見つめる発問

4 教師の評価の観点

よりよい郷土をつくろうとする心情は深められたか。
手紙、ふるさとティーチャーのお話は有効であったか。

5 児童の自己評価の観点

自分の価値意識を高めることができたか。
進んで自分の考えを発表できたか。
友だちの考えをしっかりと聞くことができたか。

えがおいつぱいフラワーロード

ある日、お父さんは仕事から帰ってくるよ、とつぜん

主人公をぼく
とすることによ
り、文章の中に入
ることが容易に
なると思い、一人
称にした。

「そのなかよし街道のわきに花を植えてみたい
と思ってるんだが、のぞみもおかさんも、手伝
ってくれるかな。おもしろいと思わない。」
と言いました。

「だいじょうぶ、道路のわきにかけてに花など植
えても。」

「どうして、うちが植えなければならぬの。いつ
植えに行くの。」

「一人とも、とつ然のことだったので、ふしぎに思い、
すぐ賛成できませんでした。」

「もちろん、市役所には許可をもらいに行くよ。道路のわきに季節
の花がさいているというのは、気持ちのいいものだよ。きつとみん
なもよろこんでくれると思うよ。花がさいていると、心もなごみ、
交通いはんも少なくなると思うんだが、どうか。義務で植えるん
じゃないんだよ。」

お父さんは、それから市役所できよかをもらってきました。さつ
そく、次の休みの日から花植えが始まりました。

ぼくは前とかかわらず、「どうして自分のうちの庭でもないのに、花
を植えるのかな」と思いましたが、仕方なくついていきました。ざ

草をかり取り、ぼくの家の庭から持ってきたサルビアやベゴニア
を植えました。その日は、8か所に植えることができました。その
後も休みの日にはつづけて同じようなことをしました。

そうしているうちに、そばを通っている人に

「よくがんばっていますね。」

「みんながよろこんでくれますよ。」

などと言われ、ぼくはうれしくなりました。

ある日、お父さんがチューリップの球根をいっぱいかかえて帰っ
てきました。

「会社の大事なお客さんがね。チューリップは町の花だからといっ
て、こんなにたくさんくれたんだよ。」

と、にこにこして言いました。

月日がたつにつれて、ぼくたちが植えてないところにも、美しい
花が植えられるようになりました。なかよし街道の草花は地いきの
人々の話題にもなり、いこいの場所にもなってきました。そして地
いきの人々の自まんの場所になっているのです。

